

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	14-315	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
<p>Cost-effectiveness analysis of baclofen and chlordiazepoxide in uncomplicated alcohol-withdrawal syndrome.</p> <p>合併症を伴わないアルコール禁断症候群に対するバクロフェンとクロルジアゼポキシドの費用-効果分析</p>		
執筆者		
Reddy VK, Girish K, Lakshmi P, Vijendra R, Kumar A, Harsha R.		
掲載誌		
Indian J Pharmacol. 2014 Jul-Aug;46(4):372-7. doi: 10.4103/0253-7613.135947.		
キーワード	PMID	
ベンゾジアゼピン、バクロフェン、アルコール離脱症状	25097273	
要旨		
<p>目的:</p> <p>ベンゾジアゼピン(BZDs)は、アルコール離脱症候群(AWS)の第一選択薬である。バクロフェン(γ-アミノ酪酸 B(GABAB)アゴニスト)は、有意な副作用を引き起こすことなく、退薬症状を制御する。本研究の目的は、単純なAWSの処置でバクロフェンとクロルジアゼポキシドの費用効果を比較することである。</p> <p>材料と方法:</p> <p>これは、バクロフェンの費用対効果分析(CEA)と単純なAWSをもつ60人の参加者におけるクロルジアゼポキシドの無作為非盲検標準対照平行群研究であった。臨床的有効度は、Clinical Institute Withdrawal Assessment for alcohol(CIWA-Ar)で測定された。退薬症状が単独の試験薬によって効果的に制御されることができない場合、ロラゼパムが補助的な薬物として使われた。直接および間接的な医療費の双方が考慮され、費用対効果分析は患者とサードパーティの見込みで分析された。</p> <p>結果:</p> <p>バクロフェンとクロルジアゼポキシドの患者の展望の平均費用効果比率(ACER)は、症状のない1日あたり、5,308.61ルピーと2,951.95ルピーであった。バクロフェンとクロルジアゼポキシドのサードパーティの見込みのACERは、症状のない1日あたり95.01ルピーと476.29ルピーであった。Mann-Whitney 試験($U = 253.50$, $P = 0.03$)による分析では、バクロフェン群と比較して、クロルジアゼポキシドの参加者はより多くの症状のない日を過ごした。</p> <p>結論:</p> <p>両方の試験薬は、退薬症状の和らげる効果をもった。クロルジアゼポキシドは、バクロフェンより費用効果的だった。バクロフェンは、クロルジアゼポキシドに比較して、より効果的でなく、より高価だった。</p>		